

明日も生きる中学生の私とあなたへ

浅科中学校 三年 市川 翔太

「つらい」と一度でも思ったことはありませんか？「生きる」ということは、それだけでもとても大変なことであり、つらいことも当然あると思います。しかし、そう思う裏には自分の生き方を自分なりにしっかりと考えているという事実があるからだと私は思います。

日本では、昨年一年間で二万一千八百七十七人の方が自殺をしています。この他にも、つらく「死にたい」と思っている人が日本にはまだまだ多くいると思います。そのような人が日本にはまだまだ多くいると思います。そのような人が最終的に「自殺」という道を選んでしまっている日本の現状はともままずい状況であり、私たち日本国民はもっと危機感を持つべきだと思います。

実際、厚労省が発表している死亡者推移でも十歳～四十四歳までの死亡の原因は「自殺」が最も多く、さらに十代の自殺の理由として最も多いのは「いじめ」を含む学校の問題とも出ています。よくあることとして「いじめをなくそう」というポスターを見かけることがあります。これは逆効果だと思っています。なぜならいじめられている人にとつたら、これはただのキレイ事であっていじめそのものをなくせるものではないからです。

では、私たちはどうすればいじめをなくすことができるのでしょうか。私はいじめの底にある、「根（原因）」をしっかりと見ることがいじめを減らすための第一歩だと思います。

私はいじめにつながる原因の中には「縛り」と「否定」があると思

います。例えば、日本を含めた世界には多くの人々がいるため、さまざまな考え方や価値観があつて当然です。しかし、これを「社会では…」とか「子どもだから…」とか「他の家は…」などという根拠のない、一般的に「当たり前」とされる、ものさし中に無理矢理入れてしまうことによつて、自分の考えを否定されて、自信を失つてしまうのではないのでしょうか。私はこれを一種の「偏見」でもあると考えます。私の場合は、昔から親に縛られることなく、自由にやりたいことをやりながら生きてきました。だから私は、今でも周りに縛られることなく自由に自分の叶えたい進路や夢などに向かつて頑張ることができていると思います。（このように、私たちは自分たちの「価値観」だけで相手を縛ったり、否定したりしないことが大切だと思います。）

また、私はいじめの原因が周りからの「縛り」や「否定」だと述べていましたが、原因は本当にこれだけなのでしょうか。私は他の原因もまだまだたくさんあると思いますが、その中でも一番の原因は「人との違いを恐れる心の弱さ」だと考えます。

人は、自分と違う考えを持つ人に対して敵対心を抱き、自分と同じ考えの味方と一緒に、違う考え方を攻撃してしまうことがあります。こうなつた時に「集団対個人」の関係が生まれ、いじめにつながるってしまいます。これを解決するためには、違う考えを持つ相手を攻撃するのではなく、相手の考えを受け止め、自分なりによく噛み砕いて考えることが大切であり、両方がお互いに寛大な心をもつ必要があると思います。

最初に述べたとおり、日本では年間多くの人が「自殺」という道を選んでいきます。その道を選ぶまでには、きつと多くのきつかけがあつたことでしょう。ですが、もし誰かが「否定」をしていなかったか

ら？誰かがその人を「寛大な心」で「受け止めて」いたら？救えた命もあるのかもしれない。

「自殺」という言葉は「自分を殺す」という意味であり、それはとても恐ろしいことです。何年、何十年と生きてきた自分をたった一瞬で消し去ってしまうのです。ですが、私の言葉一つであなたの人生を良くも悪くも変えられるかもしれません。逆に、あなたの言葉も私や誰かの人生を良くも悪くも変えられるかもしれません。つまり「私」も「あなた」も大切な一人の「人間」であり、必要不可欠な「存在」なのです。関わっていく全ての人を、そして何よりあなた自身を大切にしましょう。

関わり合い、認め合い、笑い合う。明日も生きる中学生の私とあなたへ、よりよい人間関係を築くのは、あくまで私とあなたです。